

## 水稻新品種「ゆめおうみ」の育成

野田 秀樹\*・寺本 薫・小原 安雄・谷口 真一\*\*・植田儀一郎\*\*\*

### A New Rice Cultivar "Yumeohmi"

Hideki NODA, Kaori TERAMOTO, Yasuo KOHARA,  
Shin'ichi TANIGUCHI and Giichiro UEDA

キーワード: 水稻, 中生の早, 品種育成, 良食味

水稻新品種「ゆめおうみ」は「越南135号」を母, 「滋系51号」を父として人工交配を行った後代より育成した。本品種の熟期は「日本晴」より5日程度早い中生の早の粳種で, 短稈で中間型の草型を示す。耐倒伏性は強, 葉いもち, 穂いもち抵抗性は中の強, 穂発芽性は難, 収量性は「日本晴」に優る多収, 玄米の外観品質は良く, 食味は「日本晴」に優る良食味品種である。本品種は県下の地力中庸以上の水田に適する。

## 1 緒 言

本品種は滋賀県農業試験場で育成し, 1998年「ゆめおうみ」と命名された。ここに本品種の来歴, 育成経過並びに特性等について報告する。

## 2 育成の背景と育種目標

本品種の育成を開始した1985年当時の, 滋賀県での主な作付品種は「日本晴」が60%を越え, 「コシヒカリ」が20%, 「キンパ」10%とこれら3品種で90%以上の作付けを占めていた。その後, 「キンパ」は市場評価の低下に伴い, その栽培面積は1989年には1,000 ha以下となり, 1991年には「日本晴」と「コシヒカリ」を合わせた両品種で県内作付け面積の9割を占めるに至った。そこで「キンパ」の代替品種として1991年に「こころづくし」が採用されたが, 時あたかも良食味米への消費ニーズの高まりもあり, 同時期に採用された「キヌヒカリ」, さらに「コシヒカリ」の栽培面積が伸び, 「こころづくし」の伸びは少なく, 「日

本晴」が遞減する徴候を見せていた<sup>1) 5)</sup>。

「コシヒカリ」および「キヌヒカリ」の栽培面積が増加することによって, 早生熟期に集中して刈り取りが行われるようになり, 大規模共同乾燥調製施設の利用上の支障や, 気象災害に対するリスクの増大が懸念されるようになった。

また, 近年育成された「コシヒカリ」の血を引く良食味と言われる多くの品種はいもち病に対する抵抗性が十分でないものが多い。「キヌヒカリ」もまた同様に, 少農薬等による環境調和型稲作の観点からは琵琶湖を抱える本県においては, 環境にやさしい農業に貢献しうる「こころづくし」の代替の, 中生熟期でいもち病に強い良食味品種が強く要望されていた。

## 3 育成経過

本品種の育成経過は図2に示すとおりである。

1985年夏に交配して得た種子を, 1986年に播種してほ場で1本植え栽培を行い, F<sub>1</sub>養成を行った。1987年から1988年に世代促進温室でF<sub>2</sub>~F<sub>3</sub>世代を栽培し,

\* 元滋賀県農業試験場  
\*\* 滋賀県中部地域農業改良普及センター  
\*\*\* 滋賀県病害虫防除所

1989年F<sub>6</sub>世代で3,000個体の雑種集団をほ場に展開し個体選抜を行い、草姿と玄米の外観形質について達観による調査を行い、69個体を選抜した。1990年(F<sub>7</sub>)に69系統の単独系統を養成。その中から4系統を選抜した。その内の1系統について大育850の収量試験番号を付し、1991年以降系統群系統として養成し、選抜と固定を図った。また、同年(F<sub>8</sub>)未固定系統収量試験および特性検定試験に供試した。1992年(F<sub>9</sub>)は奨励品種決定予備調査に供試し、収量等について継続検討を行うとともに、湖北分場および湖西分場に配布して併せて調査を行った。1994年(F<sub>11</sub>)には「滋



図1 「ゆめおうみ」の系譜図

年次	1985年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
世代	交配	F <sub>1</sub>	F <sub>2</sub> ~F <sub>3</sub>	F <sub>4</sub> ~F <sub>5</sub>	F <sub>6</sub>	F <sub>7</sub>	F <sub>8</sub>	F <sub>9</sub>	F <sub>10</sub>	F <sub>11</sub>	F <sub>12</sub>	F <sub>13</sub>	F <sub>14</sub>	F <sub>15</sub>
系統群数		-	-	-	-	-	4	3	3	6	4	3	14	22
系統数		-	-	-	-	69	12	9	11	6	6	20	37	36
個体数		-	-	-	3,000	3,312	576	432	528	288	288	960	1,776	1,728

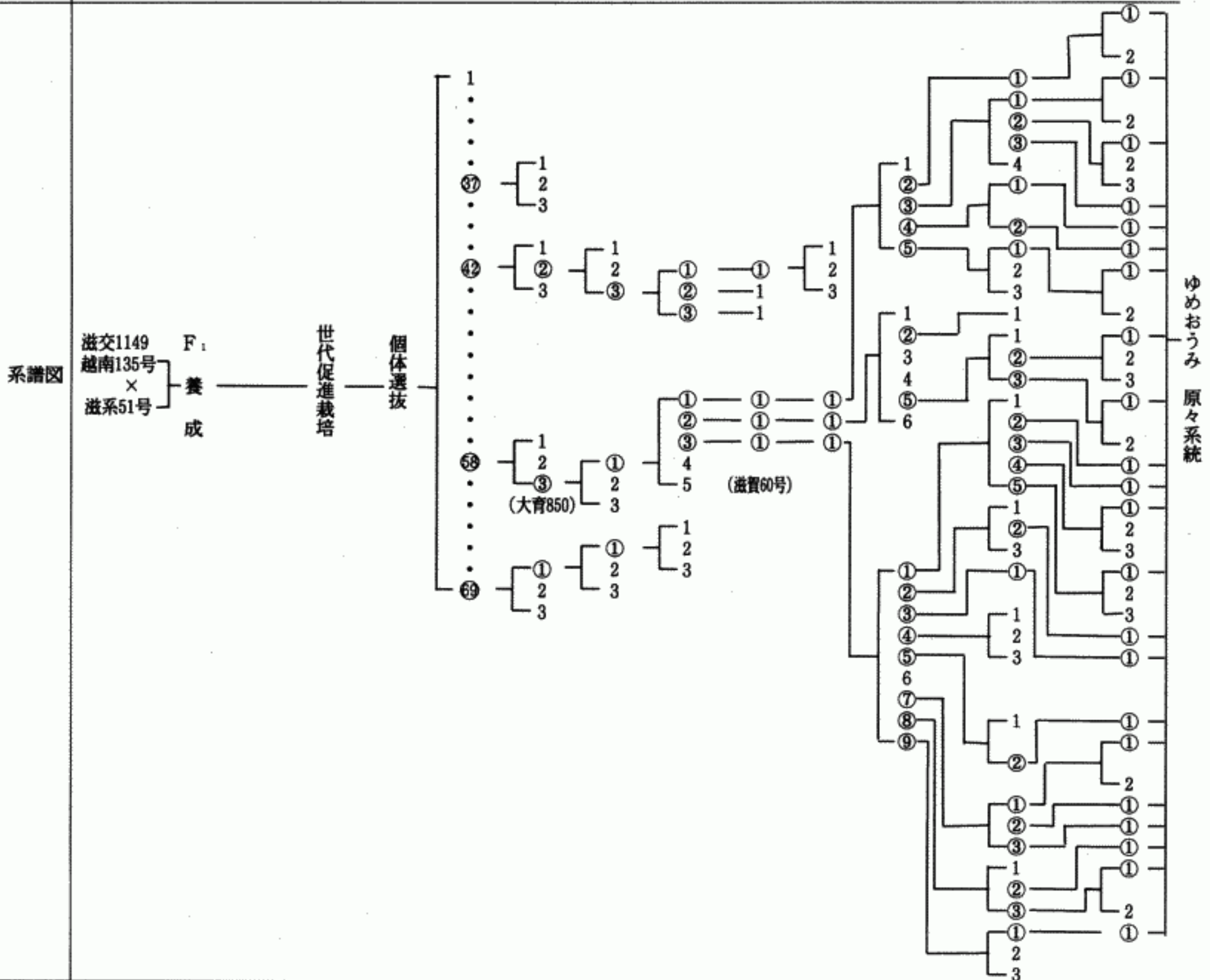


図2 「ゆめおうみ」の育成経過

賀60号」の系統名を付し、奨励品種決定本調査に供試するとともに、現地試験による調査を行った結果、有望と認められたので1996年試験を終了した。1998年には「ゆめおうみ」の品種名を付した。

#### 4 特性の概要

奨励品種決定調査および特性検定試験の結果は以下のとおりである。

表1 生育収量調査成績

調査場所 および 調査年次	品 種 名	出 成 稈 穂 穂		穂 穂		障害の程度(0~5)				わ	精	玄	同	屑	
		穂 熟	期	期	長	長	数	倒 穂	紋 下						伏 い
		期	期	長	長	数	程	も	枯	れ	重	重	重	率	合
		月日	月日	cm	cm	本/m <sup>2</sup>	度	ち	病		kg/a	kg/a	kg/a	%	%
本場標肥	ゆめおうみ	8.9	9.17	75	20.0	418	0.0	0.2	1.8	2.0	84.1	85.4	67.7	108	2.5
(育成地)	(標) ころづくし	8.7	9.15	81	21.1	407	0.3	0.2	2.4	2.1	83.2	78.8	62.8	100	2.0
1990~1996	(比) 日 本 晴	8.13	9.20	87	20.8	428	1.0	0.3	2.0	2.5	90.7	80.6	64.4	103	2.1
本場多肥	ゆめおうみ	8.7	9.14	77	20.6	449	0.0	0.0	1.3	1.8	90.7	86.9	68.2	109	3.2
(育成地)	(標) ころづくし	8.5	9.11	83	21.4	439	0.0	0.0	2.5	2.5	92.7	79.4	62.6	100	2.4
1994~1996	(比) 日 本 晴	8.11	9.20	90	21.1	461	1.2	0.0	2.0	2.8	102.0	84.4	67.5	108	1.7
湖北分場	ゆめおうみ	8.12	9.23	69	19.3	388	0.1	0.0	1.2	3.2	68.8	82.8	67.9	104	0.7
	(標) ころづくし	8.11	9.22	75	20.3	365	0.2	0.2	1.1	2.7	71.6	78.8	65.3	100	0.3
1992~1996	(比) 日 本 晴	8.17	9.29	78	19.2	390	0.6	0.1	1.0	2.8	71.9	78.7	64.9	99	0.5
湖西分場	ゆめおうみ	8.13	9.18	69	19.4	432	0.1	0.2	1.1	2.2	71.8	76.4	59.9	105	4.3
	(標) ころづくし	8.12	9.18	75	20.5	396	0.2	0.2	1.1	1.7	73.8	72.5	57.2	100	3.4
1992~1996	(比) 日 本 晴	8.17	9.25	79	19.3	441	0.3	0.2	0.8	2.2	80.3	70.3	56.2	98	2.7

注) 移植期 5月10日前後。

倒伏等の障害の程度は、0(無)~5(甚)の6段階により判定。

#### 4.1 早晩性

栽培試験の結果、本品種の出穂期は「日本晴」より4日程度早く、「ころづくし」より2日程度遅い。成熟期は「日本晴」より5日程度早く、「ころづくし」より2日程度遅い中生の早に属する(表1)。

#### 4.2 草姿、草型および関連形質

移植時の苗を「日本晴」と比較すると、草丈はやや

短く葉色、葉幅は中で直立する(表2)。その後、本田での初期生育、分けつの発生は良好である。

稈長は「ころづくし」より6cm、「日本晴」より12cm短く短稈である。「日本晴」、「ころづくし」と穂長および穂数は同程度で中間型の草型を示す(表1)。

穂型は、二次枝梗依存率、粒着密度とも「日本晴」と同程度で、もみは芒が短く少ない「日本晴」程度、ふ先色は黄白、脱粒性は難である(表3)。

表2 形態調査成績 (育成地)

品 種 名	移 植 時 苗			稈		芒		ふ先色	粒着 密度	脱粒性 の難易	玄 米		
	草丈	葉色	直垂	葉巾	細太	剛柔	多少				長短	粒形	大小
ゆめおうみ	やや短	中	やや直	中	中	やや剛	少	短	黄白	中	難	中	中
(標) ころづくし	中	やや淡	中	中	やや太	やや剛	中	中	黄白	やや疎	難	中	やや大
(比) 日本晴	中	中	中	中	中	中	少	短	黄白	中	難	中	中

表3 穂型調査成績 (育成地)

品 種 名	年 次	粒着密度 粒/cm	一 時 枝 便		二 次 枝 便	
			枝便数	もみ数	枝便数	もみ数
ゆめおうみ	1992	4.9	10.0	56	14.3	41
(標) ころづくし	~	4.4	10.3	57	12.3	33
(比) 日本晴	1996	4.7	9.2	51	16.3	46



写真1 草状

左から「ゆめおうみ」「ころづくし」「日本晴」

#### 4. 3 収量性

育成地の標肥区における1990~1996年調査の平均値では、a当たり玄米重は67.7kgで、「ころづくし」対比108%、「日本晴」対比105%である(表1)。さらに、現地試験の結果においても総じて「日本晴」または「ころづくし」に比べて多収である(表4、図3)。

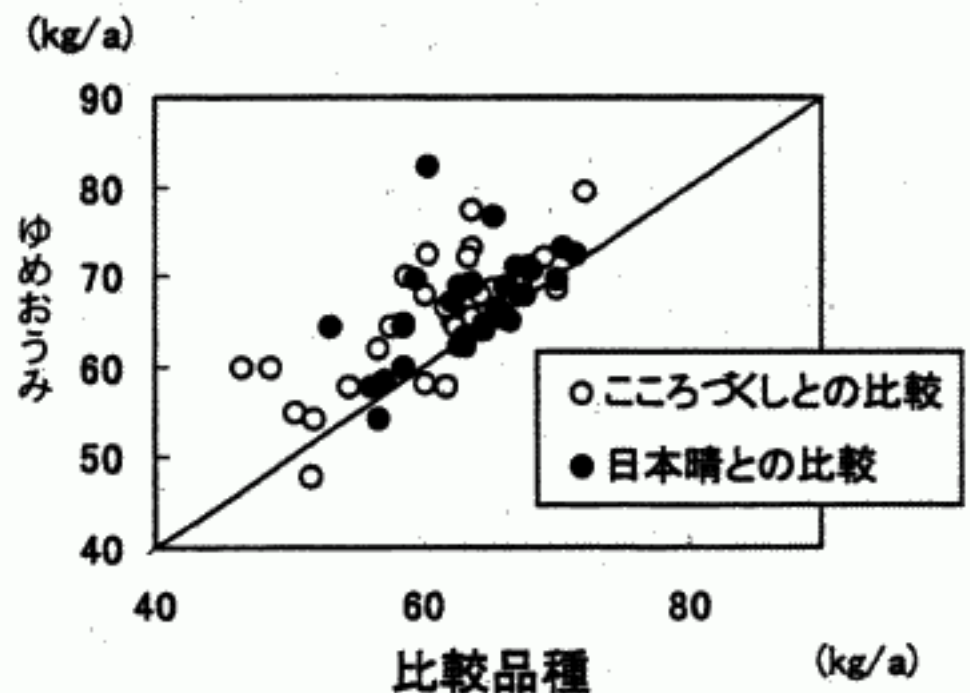


図3 ゆめおうみの収量相関図

水稻新品種「ゆめおうみ」の育成

表4 水稻奨励品種決定現地調査および水稻有望系統試作試験

調査場所	品 種 名	供試 年次	出 成		稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m <sup>2</sup>	玄 米 重 kg/a	同 左 比 率 %	重 玄 米 千 粒 g	品 質 (1~9)
			穂 期 月日	熟 期 月日							
マキノ町	ゆめおうみ	'96	8. 8	9. 13	67	19.8	363	62.1	110	24.0	4.5
中 庄 (比)	こころづくし		8. 5	9. 12	69	20.9	322	56.4	100	24.8	6.5
木之本町	ゆめおうみ	'96	8. 13	9. 23	66	19.0	401	59.9	124	22.4	4.0
赤 尾 (比)	こころづくし		8. 11	9. 21	70	19.7	363	48.4	100	23.8	6.0
高月町	ゆめおうみ	'94~	8. 12	9. 23	73	20.6	446	74.0	104	22.9	5.0
井 口 (比)	こころづくし		'95	8. 8	9. 22	80	21.5	453	71.1	100	23.5
びわ町	ゆめおうみ	'95	8. 11	9. 22	70	20.8	453	68.0	106	22.3	4.3
	(比) こころづくし		8. 9	9. 19	78	23.2	378	64.3	100	23.4	5.0
下八木	ゆめおうみ	'94	8. 5	9. 15	69	20.1	474	69.1	104	23.3	4.5
	(比) 日 本 晴		8. 10	9. 22	77	20.2	442	66.2	100	22.4	4.8
浅井町	ゆめおうみ	'94~	8. 13	9. 23	71	20.9	452	72.2	109	23.4	5.3
八 島 (比)	こころづくし		'95	8. 10	9. 23	80	21.7	408	66.2	100	23.7
山東町	ゆめおうみ	'92~	8. 10	9. 17	69	19.0	405	59.5	102	22.0	4.7
	(比) こころづくし		'93,'95	8. 8	9. 17	74	19.4	416	58.5	100	23.5
北 方	ゆめおうみ	'94	7. 27	9. 7	65	19.0	421	60.0	103	22.6	4.8
	(比) 日 本 晴		8. 5	9. 12	71	19.3	413	58.3	100	21.6	4.5
近江町	ゆめおうみ	'96	8. 7	9. 15	66	20.8	377	61.9	—	23.2	5.0
	(比) こころづくし		8. 12	—	—	—	—	(57.7)	=聞き取りによる	—	—
彦根市	ゆめおうみ	'95	8. 10	9. 25	78	21.2	364	69.2	109	22.9	4.5
	(比) こころづくし		8. 8	9. 22	80	22.9	355	63.7	100	23.4	5.5
甲 崎 町	ゆめおうみ	'94	8. 5	9. 7	70	19.8	547	68.1	101	24.2	5.3
	(比) 日 本 晴		8. 6	9. 18	79	20.8	441	67.7	100	22.7	4.8
彦根市	ゆめおうみ	'96	—	9. 18	68	21.0	346	63.6	101	23.9	5.0
田附町 (比)	日 本 晴		—	9. 15	76	21.0	415	63.1	100	23.1	5.0
湖東町	ゆめおうみ	'94~	—	9. 21	67	19.4	398	54.1	110	22.1	4.7
平 柳 (比)	こころづくし		'95	—	9. 20	70	20.2	356	49.0	100	23.1
安土町	ゆめおうみ	'94	—	9. 10	71	19.5	448	66.4	108	24.2	5.0
小 中 (比)	こころづくし		—	9. 7	76	21.3	382	61.7	100	24.4	5.8
近江八幡市	ゆめおうみ	'95	—	9. 11	73	20.4	374	58.4	103	24.1	6.5
加茂町 (比)	こころづくし		—	9. 11	74	21.1	402	56.9	100	24.4	6.0
八日市市	ゆめおうみ	'94	8. 5	9. 5	66	19.3	325	71.1	106	24.2	5.3
小 脇 町 (比)	日 本 晴		8. 6	9. 7	78	21.4	417	67.0	100	23.6	4.5
永源寺町	ゆめおうみ	'94~	—	9. 22	74	19.9	400	68.2	110	23.9	4.4
和 南 (比)	こころづくし		'95	—	9. 21	76	20.5	362	62.1	100	24.9
日野町	ゆめおうみ	'94	8. 10	9. 10	70	18.7	479	70.7	104	22.5	5.0
猫 田 (比)	日 本 晴		8. 12	9. 13	80	18.4	468	68.1	100	22.7	4.5
中主町	ゆめおうみ	'94	—	9. 6	69	20.2	475	77.3	121	23.7	5.0
六 条 (比)	こころづくし		—	9. 6	69	20.6	408	63.7	100	23.4	6.8
野洲町	ゆめおうみ	'94	8. 2	9. 14	71	20.2	446	76.7	117	23.2	4.5
三 上 (比)	日 本 晴		8. 7	9. 19	82	21.9	463	65.3	100	21.7	4.8
甲西町	ゆめおうみ	'95	—	9. 18	72	21.2	409	65.5	100	23.7	5.3
夏 見 (比)	こころづくし		—	9. 18	80	22.0	386	65.4	100	24.1	6.5
甲賀町	ゆめおうみ	'93、	8. 14	9. 20	75	19.0	387	68.6	108	22.9	4.3
	(比) こころづくし		'95	8. 10	9. 21	81	19.6	367	63.4	100	23.8
滝	ゆめおうみ	'94	8. 3	9. 12	74	20.1	460	82.3	136	24.0	5.3
	(比) こころづくし		8. 8	9. 14	78	19.8	377	60.4	100	23.1	4.5
大津市	ゆめおうみ	'96	—	9. 18	74	19.6	428	69.8	100	24.1	5.0
枝 (比)	日 本 晴		—	9. 26	89	19.2	489	69.9	100	23.2	4.0
甲賀町	ゆめおうみ	'96	8. 10	9. 18	66	18.3	290	44.1	73	23.4	4.0
滝 (比)	日 本 晴		8. 12	9. 20	79	18.4	433	60.7	100	24.2	4.5

注) 甲賀町滝の2ヶ所は異なるほ場である。

4. 4 玄米品質

育成地の標肥区における玄米千粒重は22.7g前後で、「日本晴」よりやや重いが「こころづくし」よりやや軽い。茶米は少なく、「こころづくし」より外観品質は良く、「日本晴」並である(表5)。

4. 5 倒伏抵抗性

「ゆめおうみ」は短稈で、下位節間も短く倒伏に強い形態をしている(表7)。倒伏抵抗性検定試験においても倒伏は全く見られず、「日本晴」より倒伏しにくい。倒伏抵抗性が強の「こころづくし」よりさらに強い極強と評価される(表8)。

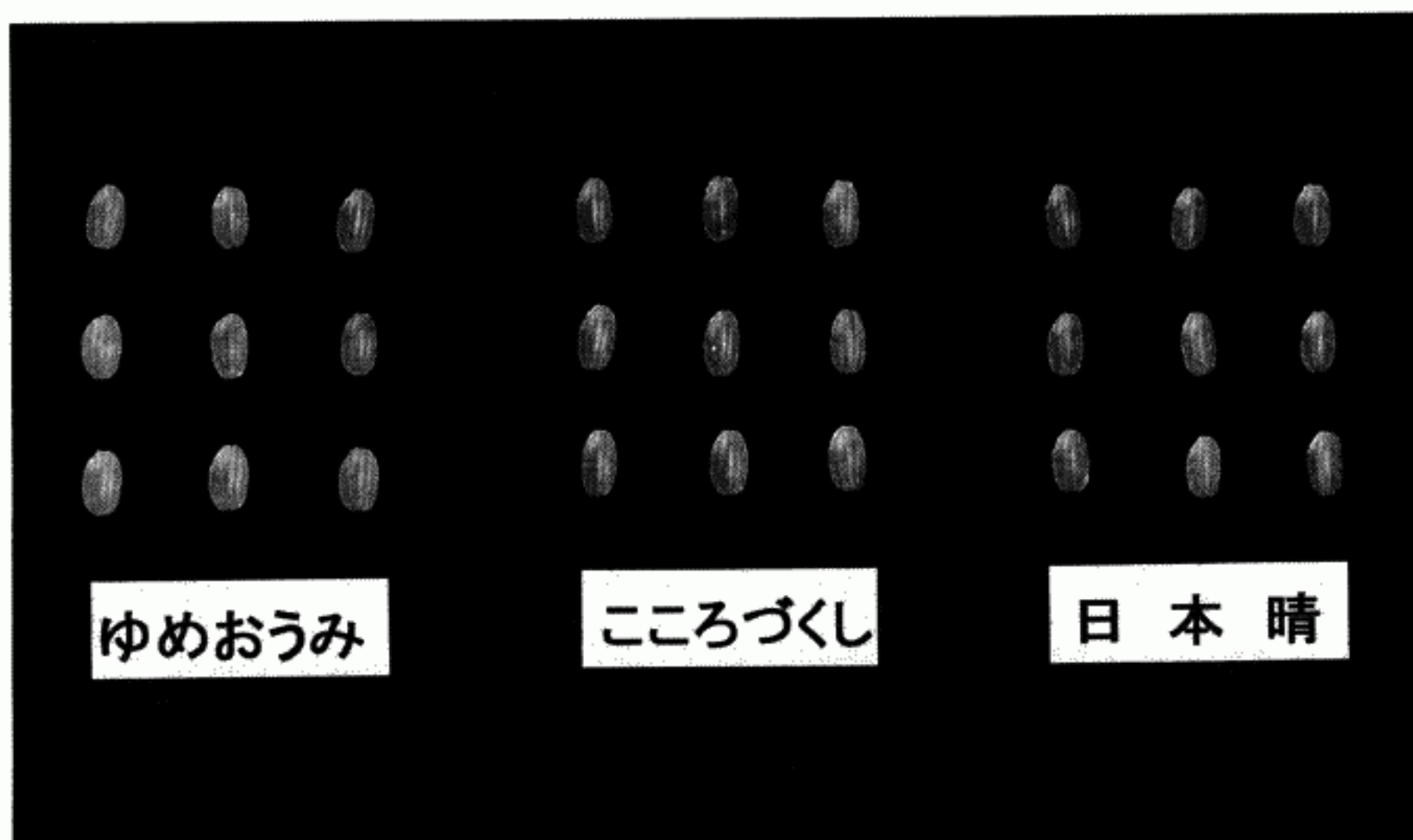


写真2 玄米

表5 玄米形質調査成績(育成地)

調査場所 および 調査年次	品 種 名	玄 米 千 粒 重 g	容 積 g/l	玄米の外観品質				品 質 (1 9)
				光 沢	被害粒等(0-5)			
					腹 白	乳 白	茶 米	
本場標肥 (育成地) 1992~1996	ゆめおうみ	22.7	823	中大	1.7	0.8	1.1	4.6
	(標)こころづくし	23.3	819	中	1.8	1.5	3.3	6.3
	(比)日本晴	21.9	816	中大	1.3	0.8	1.6	3.8
本場多肥 (育成地) 1994~1996	ゆめおうみ	22.2	827	大	1.2	1.0	0.8	4.5
	(標)こころづくし	22.9	822	中小	1.8	2.0	3.8	7.0
	(比)日本晴	21.9	829	中大	1.5	1.3	1.8	4.5
湖北分場 1992~1996	ゆめおうみ	22.6	842	中大	1.5	1.2	1.2	5.3
	(標)こころづくし	23.3	834	中	1.3	0.9	2.3	6.1
	(比)日本晴	22.1	838	中大	1.2	0.6	0.9	4.7
湖西分場 1992~1996	ゆめおうみ	21.7	808	中大	1.6	1.8	0.5	4.6
	(標)こころづくし	22.2	804	中大	0.9	2.0	2.2	6.3
	(比)日本晴	21.7	809	中大	1.2	0.8	0.9	4.0

水稻新品種「ゆめおうみ」の育成

表6 粒厚分布調査および搗精調査成績（育成地）

品 種 名	年 次	粒 厚 別 重 量 割 合 (%)						搗精歩合 (%)
		≥2.2mm	2.1	2.0	1.9	1.8	1.8mm>	
ゆめおうみ	1992	6.1	30.4	41.0	15.0	5.5	2.0	91.0
(標) ころづくし	~	16.8	38.7	30.2	8.3	3.9	2.1	89.5
(比) 日 本 晴	1996	4.1	27.1	46.4	15.6	4.8	1.8	89.8

表7 節間長および茎数調査（育成地）

品 種 名	年 次	N <sub>1</sub>	N <sub>2</sub>	N <sub>3</sub>	N <sub>4</sub>	N <sub>5</sub>	N <sub>6</sub>	+30日* 茎数 本/m <sup>2</sup>	有効茎歩合 %
ゆめおうみ	1992	35.1	18.4	11.4	7.2	2.0	0.2	284	63
(標) ころづくし	~	36.8	18.9	13.2	8.9	2.9	0.2	281	68
(比) 日 本 晴	1996	39.8	21.5	13.5	8.8	2.5	0.3	320	64

注) \* 移植後30日目の茎数。 有効茎歩合は、(穂数/ +30日茎数×100) により算出。

表8 倒伏抵抗性検定試験（育成地）

品 種 名	年 次	出 穂 期	成 熟 期	倒 伏 程 度 (0~5)					成 熟 期	倒伏 評価
				出 穂 後 日 数						
				15日	20日	25日	30日	35日		
ゆめおうみ	'94	8. 4	9. 9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	強
	'95	8. 12	9. 16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	極強
	'96	8. 6	9. 13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	極強
	平均	8. 7	9. 13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	極強
(標)ころづくし	'94	8. 1	9. 7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	強
	'95	8. 10	9. 13	0.0	0.0	0.5	0.5	1.0	1.0	強
	'96	8. 3	9. 11	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	強
	平均	8. 5	9. 10	0.0	0.0	0.2	0.3	0.5	0.5	強
(比)日 本 晴	'94	8. 8	9. 12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	やや強
	'95	8. 18	9. 22	1.0	1.0	1.5	1.5	2.5	3.0	中
	'96	8. 10	9. 16	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	やや強
	平均	8. 12	9. 17	0.5	0.5	0.7	0.7	1.3	1.5	やや強

注) 倒伏程度は、0（無）～5（甚）の6段階により判定。

4. 6 穂発芽性

穂発芽性は、「こころづくし」、「日本晴」の中よりかなり難の極難である(表9)。本品種の成熟期である9月中旬は、秋の長雨の頃でもあり、特に気温が高い年にはしばしば穂発芽が問題になるが、本品種は倒伏抵抗性に優れることと併せ穂発芽しにくい極めて有利な特性を有する。

4. 7 耐病性

4. 7. 1 いもち病抵抗性

育成地におけるほ場抵抗性は、1992年～96年の検定

結果によると、葉いもち、穂いもちとも「こころづくし」、「日本晴」の中に比べてやや強である(表9)。また、島根農試赤名分場における穂いもち抵抗性検定試験結果は、中の判定であった。しかし、他の標準品種の発病程度から、強に近い中であつたもの推測される(表9、10)。

なお、真性抵抗性については、現在県内において優勢であるレース003やレース007に対して罹病性であることから、高度な抵抗性遺伝子は保有していないものと考えられる<sup>9)</sup>(表9)。

表9 いもち耐病性および穂発芽検定試験(育成地)

品 種 名	年 次	葉 い も ち			穂 い も ち			穂 発 芽 性		
		発 病 程 度		評 価	発 病 程 度		評 価	発 芽 率		評 価
		調 査 時 期			調 査 時 期			調 査 時 期		
I	II	I	II	I	II	I	II			
ゆめおうみ	'92	1.5	2.5	r	2.0	3.0	m	2	18	極難
	'93	—	1.5	r r	1.0	3.0	r	7	34	中難
	'94	—	2.0	r r	—	—	—	2	12	極難
	'95	2.5	5.5	m	2.0	3.0	r r	2	37	極難
	'96	—	3.5	m	—	1.0	r r	—	—	極難
	判定	—	2.0	r	1.5	3.0	r	4	21	極難
(標)こころづくし	'92	2.5	3.5	r	1.0	3.0	m	26	56	中
	'93	—	2.0	r	3.3	5.0	m	15	43	中難
	'94	—	4.0	m	—	—	—	17	47	難
	'95	—	—	—	9.0	10.0	s s	29	88	中易
	'96	—	3.5	m	—	6.0	m	—	—	中
	判定	—	3.2	m	2.2	4.0	m	19	49	中
(比)日 本 晴	'92	3.5	4.0	m	1.0	2.0	r	30	76	中
	'93	—	3.0	m	3.5	4.8	s	20	55	中
	'94	—	4.0	m	—	—	—	14	45	難
	'95	—	—	—	—	—	—	51	97	中易
	'96	—	3.5	m	—	4.0	r	—	—	中
	判定	—	3.7	m	2.3	3.4	m	21	59	中

注) いもち病抵抗性の判定は、極強(r r)～中(m)～極弱(s s)の5段階により評価  
穂発芽検定は検定穂を成熟期に採取し、1日風乾後5℃で密閉貯蔵、15℃で72時間吸水後、30℃における48時間後(I)96時間後(II)の発芽率。

4. 7. 2 紋枯病

「こころづくし」や「日本晴」に比べてやや発生程度が少ない傾向であるが、大差は見られず、ほぼ同等と考えられる(表1)。

4. 7. 3 白葉枯病

白葉枯病の検定は、常発地(大津市上田上堂町)における自然発病条件で行った。1993年の検定結果によ

ると、「ゆめおうみ」は現地における優勢な菌系(I B型)に対して罹病性であり、「キヌヒカリ」と同等の弱である(表11)。なお、これまでの現地での栽培においても白葉枯病の発生を数回認めている。



水稻新品種「ゆめおうみ」の育成

表10 穂いもち抵抗性検定試験結果

(島根農試赤名分場)

品 種 名	発病程度	判 定
ゆめおうみ	3.5	中
トドロキワセ (極強)	2.4	
ニホンマサリ (中)	9.6	
コシヒカリ (極弱)	10.0	

・自然発病, 2区制

表11 白葉枯耐病性検定試験 (1993. 大津市枝)

品 種 名	調査時期		判 定
	1回目	2回目	
ゆめおうみ	2.8	3.3	s
(標) ころづくし	2.5	2.0	r
(比) 日 本 晴	2.7	2.5	m
(参) コシヒカリ	2.8	2.8	m
(参) キヌヒカリ	2.8	3.8	s

・自然発病 (菌群はIB型), 2区制.  
極強(r r)~中(m)~極弱(s s)の5段階により評価

4. 8 食味

4. 8. 1 食味官能試験

育成地における1992年~96年の食味試験の結果, 「ゆめおうみ」は「ころづくし」, 「日本晴」よりも明らかに良食味である (表12および図4). また, 1995年の勸日本穀物検定協会による官能食味評価から, 有意差は認められないが, 「ゆめおうみ」の評価値は, 「コシヒカリ」には及ばないながら, 「ころづくし」,

「日本晴」に優る傾向が得られている (表13).

また, 1995年産の「ゆめおうみ」について育成地および現地10ヶ所のアミロース分析を行った結果, いずれの地点の産米においても「ころづくし」や「日本晴」に比べて安定的に低く, 食味形質に優ることが示唆された. また, 1996年産について近赤外分光分析計により蛋白含量測定した結果, 「日本晴」に比べ蛋白含量が低いことから, 本品種の良食味が窺われる (表14).

表12 食味試験結果

年 次	試 区	験 分	総 合	外 観	香 り	味	粘 り	硬 さ	パネル	基 準				
										均 一	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴	
1992	予 山	備 東	+0.7	+0.1	-0.1	+0.4	+0.4	0	7	均 一	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴
			0	0	0	0	+0.3	0	11					
1993	* 予 山	* 備 東	+0.1	-0.1	-0.1	+0.1	+0.2	-0.1	11	均 一	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴
			-0.2	-0.1	-0.1	0	+0.2	-0.4	9					
			0	+0.1	0	-0.2	-0.1	-0.5	13					
			0	-0.1	-0.1	+0.2	+0.1	-0.2	13					
* 予 山	* 備 東	* 賀 備	-0.1	+0.1	+0.1	-0.3	-0.4	+0.3	8	均 一	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴
1994	* 本 山 彦 八 日 野 甲 予 本 湖 永 安 中 予	* 標 東 根 市 野 洲 賀 備 標 東 寺 土 主 備	+0.2	+0.3	+0.2	+0.2	+0.1	+0.3	13	本 山 彦 八 日 野 甲 予 本 湖 永 安 中 予	標 東 根 市 野 洲 賀 備 標 東 寺 土 主 備	日 本 晴	日 本 晴	日 本 晴
			0	+0.2	0	-0.1	-0.1	+0.6	11					
			0	0	-0.1	+0.1	-0.3	+0.3	11					
			0	-0.2	-0.1	-0.1	+0.3	-0.1	10					
			+0.1	0	-0.1	0	+0.4	-0.3	10					
			+0.3	+0.3	-0.1	+0.3	+0.3	0	12					
			+0.4	+0.4	+0.1	+0.2	+0.1	+0.3	12					
			+0.1	+0.3	-0.1	+0.1	+0.3	0	14					
			0	-0.1	0	+0.1	-0.3	-0.4	8					
			+0.5	+0.2	0	+0.4	+0.5	-0.6	13					
			+0.3	+0.1	-0.2	0	+0.5	-0.3	14					
			+0.3	+0.6	-0.3	+0.2	+0.2	-0.2	12					
			+0.2	+0.3	0	+0.1	+0.3	-0.3	12					
			+0.4	0	+0.2	+0.3	+0.4	+0.2	14					
+0.4	+0.1	+0.1	+0.3	+0.1	+0.3	8								

表12 食味試験結果(続き)

年次	試験区分	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	パネル	基準					
									本彦	標根	日	本	晴	
1995	本彦	標	+0.5	+0.2	+0.1	+0.5	+0.4	-0.3	14	本彦	標根	日	本	晴
		根	-0.3	0	-0.2	-0.2	-0.2	+0.2	13	彦	賀	日	本	晴
	* 本彦	標	+0.2	+0.1	+0.1	+0.3	+0.3	-0.6	12	本彦	標根	日	本	晴
		賀	-0.1	0	0	-0.1	+0.3	0	10	彦	肥	日	本	晴
	* 少本	標	+0.2	+0.2	+0.1	+0.3	-0.2	0	12	少本	標根	日	本	晴
		肥	-0.1	+0.1	+0.4	0	-0.1	-0.3	14	本	標	こ	ろ	づ
	* 本彦	標	+0.6	+0.3	+0.3	+0.5	+0.4	-0.4	13	本彦	標根	こ	ろ	づ
		わ	+0.3	+0.5	+0.5	+0.2	+0.2	-0.1	13	彦	賀	こ	ろ	づ
	* 山高	東	+0.1	+0.4	+0.1	+0.3	+0.1	-0.2	13	山高	標根	こ	ろ	づ
		月	+0.4	+0.4	0	+0.2	+0.5	-0.3	13	高	賀	こ	ろ	づ
	* 浅湖	井	+0.1	-0.3	+0.1	+0.4	+0.3	-0.3	14	浅湖	標根	こ	ろ	づ
		東	+0.1	+0.1	+0.1	+0.1	+0.1	-0.2	14	湖	賀	こ	ろ	づ
	* 永源	寺	+0.2	-0.1	+0.2	+0.1	+0.2	-0.1	12	永源	標根	こ	ろ	づ
		幡	-0.1	+0.3	-0.2	+0.3	+0.2	-0.2	12	源	賀	こ	ろ	づ
* 本彦	西	+0.2	+0.1	+0.1	+0.2	+0.4	0	10	本彦	標根	こ	ろ	づ	
	標	+0.2	0	-0.1	+0.2	-0.1	-0.2	13	彦	賀	こ	ろ	づ	
* 本彦	月	+0.2	0	-0.1	+0.2	-0.1	-0.2	13	本彦	標根	こ	ろ	づ	
	井	+0.3	+0.2	0	+0.3	0	0	12	彦	賀	こ	ろ	づ	

・試験区分の予備は奨励品種決定予備調査を、本標は本調査標肥区を示す。また、均一は均一栽培を示す。  
 ・\*は湖北分場における成績。

表13 日本穀物検定協会による官能食味評価

品種名	試験成績								食味ランク
	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合評価			
						評価値	信頼区間	有意差	
ゆめおうみ	0.000	-0.050	0.050	0.111	-0.278	0.050	±0.228	0	A'
こころづくし	-0.167	-0.111	-0.167	-0.222	0.167	-0.167	±0.228	0	A'
日本晴	-0.111	-0.167	-0.222	0.050	-0.111	-0.167	±0.228	0	A'
コシヒカリ	0.100	-0.150	0.000	0.250	-0.100	0.100	±0.245	0	A'

(1995年育成地産、基準は中主町日本晴)

表14 機器による食味関連成分分析結果

品種名	アミロース含量(%)		蛋白質含量(%)
	産地数	平均値	
ゆめおうみ	10	19.4	7.050
こころづくし	10	20.5	-
日本晴	4	20.9	7.459
コシヒカリ	-	-	7.072

アミロース：ブランルーベ製オートアナライザーによる、1995年産サンプル

蛋白質：ニレコ近赤外分光分析計NIRS6500による、1996年産サンプル  
 とともに乾物あたり



図4 ゆめおうみの食味評価

## 5 適地および栽培上の注意

「ゆめおうみ」は瘠薄地において減収することがあるので、地力中庸以上の県下平坦部の水田に適する。ただし、白葉枯病に弱いので、常発地の栽培は控える。

本品種の栽培に当たっては、以下の点に留意する。

- ① 育苗に当たっては休眠が深く発芽が遅いので、十分に浸種し催芽後播種する。
- ② いもち病のほ場抵抗性を有するが、幼苗では抵抗性が十分でないので、育苗時には「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」と同様に発病に注意し、病斑を認めたら速やかに防除する。
- ③ 早植えや多肥栽培で初数が極端に増加した場合や、早期落水によって乳白粒が発生し、外観品質の低下を招くことがあるので注意する。
- ④ 短強稈であることから多肥による倒伏の心配はないが、食味向上に配慮して穂肥以降の施肥は控える<sup>1) 2)</sup>。

## 6 命名の由来

良質多収でいもち病のほ場抵抗性が強いことから、安全で安心な近江米の代表銘柄となり近江の国に広く普及するよう夢と願いを込め命名した。

## 7 摘 要

「ゆめおうみ」は滋賀県農業試験場で1985年に「越南135号」と「滋系51号」を交配し、その後代から育成した。

「ゆめおうみ」の特性の概要は、以下に示すとおりである。

1. 出穂期は「日本晴」より4日程度早く、「こころづくし」より2日程度遅い。成熟期は「日本晴」より5日程度早く、「こころづくし」より2日程度遅い中生の早に属する。
2. 稈長は「こころづくし」より6cm、「日本晴」より12cm短く短稈である。「日本晴」、「こころづくし」と穂長および穂数は同程度で中間型の草型を示す。
3. 収量性は「こころづくし」および「日本晴」に優る。
4. 玄米千粒重は22.7g前後で、「日本晴」よりやや

重いが「こころづくし」よりやや軽い。茶米は少なく、「こころづくし」より外観品質は良く、「日本晴」並である。

5. 耐倒伏性は「日本晴」および「こころづくし」に優る極強である。また穂発芽性は「日本晴」および「こころづくし」に優る極難である。
6. 葉いもちおよび穂いもちのほ場抵抗性は、「こころづくし」および「日本晴」に比べ優るやや強である。
7. 食味は「こころづくし」および「日本晴」に比べて良食味である。
8. 栽培の適地は地力中庸以上の県下平坦部の水田であるが、白葉枯病の発生し易いところは避ける。

## 謝 辞

本品種の育成および報告に当たっては大西功男栽培部長のご指導をいただいた。また、当時管理係技師および技術員、ならびに湖北分場・湖西分場の品種試験担当者の労に負うところが大きい。また、特性調査および現地適応性調査等については、各地域農業改良普及センターならびに担当農家から多大のご協力とご援助を賜った。また島根県農業試験場赤名分場には穂いもちの抵抗性を検定願った。ここに記して、これら関係各位に対し深甚の謝意を表する。

## 引用文献

- 1) 平野哲也：栽培条件が玄米の蛋白含量に及ぼす影響 日作東北支部報 15 8-9. 1971
- 2) 稲津 脩：良食味米の理化学的特性と栽培（シンポジウム記事）日作紀59(3) 611-615. 1990
- 3) 松尾孝嶺ほか：稲学大成（第二巻）. 665-678. 1990
- 4) 滋賀農林統計協会：滋賀の水稲（平成10年産）. 42. 1998
- 5) 食糧庁：米麦データブック. 96-97. 1998

## Summary

A new rice cultivar "Yumeohmi" was developed from a cross between "Etsunan 135" and "Jikei 51" conducted in 1985 at the Shiga Prefectural Agricultural Experiment Station. "Etsunan 135" is a line with high yield and lodging resistance.

"Jikei 51" is a line with excellent grain appearance and fine eating quality. The selected line from the progenies of the cross has been tested for its plant type and grain quality since 1989. The line was named "Daiiku 850", and tested for its yield, disease resistance and eating quality since 1991. Its adaptability to each region of the prefecture has been examined since 1992. "Daiiku 850" was re-named "Shiga 60" in 1994. As the result of extensive testing, it was confirmed as a line with fine characteristics, and was re-named Yumeohmi in 1998. The main characteristics of Yumeohmi are as follows:

1. The heading date of "Yumeohmi" is approximately four days earlier, and maturing date is approximately five days earlier than those of "Nipponbare". "Yumeohmi" is classified as a medium-early maturing cultivar. The culm length of "Yumeohmi" is 12cm shorter and its panicle length and panicle number is approximately similar to "Nipponbare". "Yumeohmi" is a non-glutinous and intermediate plant type cultivar.
2. In performance tests at the breeding station and each region of the prefecture, the yield of "Yumeohmi" was found to be higher than that of both "Nipponbare" and "Kokorozukushi". Its appearance grade as brown rice is superior to that of "Kokorozukushi", and the same level as that of "Nipponbare". Its 1000 grain weight as brown rice was heavier than that of "Nipponbare". Its eating quality as cooked rice is superior to that of both "Nipponbare" and "Kokorozukushi".
3. The field resistance of "Yumeohmi" to blast disease is superior to that of "Nipponbare" and "Kokorozukushi". Its field resistance to bacterial leaf blight is however inferior to that of "Nipponbare" and "Kokorozukushi". The lodging resistance of "Yumeohmi" is superior to that of "Nipponbare" and "Kokorozukushi".
4. "Yumeohmi" is suitable for the plains of Shiga prefecture with the exception of infertile land.